阿部ツル　天羽生イト　淺田信
伊藤ちか　伊地知さつ　井上いつ
奥田久　岡本須ゑ　大岩のぶ
川上つね　加藤じう　菊田豊
窪井ツネノ　小林いゑ　堺さき
篠田もと　清水くに子　須藤ちよう
田邊きり　田邊秀　田中たきの
東條春　内藤まさよ　長澤栞
中川あや　西脇りか　錦織かめ
遠水信　平川淑　廣間ひで
松村とみ　三浦くに　三宅ます
百瀬ゑい　馬上はじめ　野澤みさり
山根壽々子　山邊ふみ　由井長
伊藤うめ　石川しげ　林たね
大西シヅ　加藤あや　金谷京
武藤キヨシ　安永ミチ　國府富美
宮崎かつ枝　關みさを　飯沼檀
梶原千代　金森かう　竹本せい
小泉イク　越前ツタ　白神美子

一、退會者（八名）

飯田孝　蛭子つま　白井その
森岡たけ　岡田ひさ　有木ふく　岩崎珠子　飯岡とみ
石澤けん　江端よう　岡崎なみ
小野清　太田みつ　川口琴
北澤あきの　黒山トク　黒石つや
齋藤彌生　島村ちか　進藤ちか
須部下枝　鈴木はる　立山くま
田中その　塘光　梅野はつ
中西ちよ　永井みつ　直江かめよ
橋本ゆき　橋本とし子　原しげの
樋口ふじ　松元晴子　松原みち
水民芳　武藤じつ　森かよ
山下サイ　山本トシ　八木恭子
脇田ふざ　瀬川けい　瀬尾ゑい
富澤美穂　小倉千年　小野あつ
多田しめよ　中村イト　中山タエ
江藤馨　齋藤加津　水谷年惠
市瀬ちひろ　鳥澤しげ　豊島とも
國枝琴　窪田ケイ　松橋やす
鶴本ヨネ　橋川篤子　平野さと

幼稚園日記
蕊の花

第一日

さあ今日からは愈新しい生活に入るのである。かう思つて○の組の室に入つた。先生と先着のAはもう襷がけで働いて居られる。やがて少しづゝ子供が「先生お早うございます」といつて入つて來る。みんな小さいジエントルマンであり小さいレデーである。小さい手でお互にエプロンをかけかへあつて居る樣子が涙の出る程いぢらしい。それがすむと白くつる〳〵に光つて居るお湯の鐵管に小さい腰を下ろして不思議さうに私達の顏を眺めて居る。別離遭逢、小さい胸にはどんなに印せられて居る事であらう。闘引きで受持の机がきまつた。小さい椅子、低い机お伽話に見る小人國に來た樣な氣がする。

紹介がすんだ、先生はオルガンをお引きになると小さい靴が遊戯室まで微妙に動いて行く。こゝで會集がある。幼稚園は音樂の國である、室に歸つて又三つ四つ歌がうたはれた。「桃太郎さんのお話をしませうね、昔々お爺さんとお婆さんが……」先生がお話しかけになるとお隣の室から「今は山坂今は濱」ゆるやかな音が流れて來る。振動數の同じ音差の樣に子供の聲帶はすぐに共鳴した。先生は思ひかへしてオルガンにお座りになつた。

一人の子がそつと私を顧みて「先生の名は何といふの、僕忘れちやつた。僕のうちはね先生知つてる？」「いゝえ」「□□亭よ、西洋お料理」かういつて又向ふを向いた。

外では鬼ごつこと隱れん坊、隨分疲らされて了つた。

「○ノ組おはいり〳〵〳〵」。

二三人の子が妙な節でいふとみんなが雷同する。お手を洗つて御飯を頂くのである。私は全く時間のない國に來た。あまりに時間に囚はれて居た私は何だかぼんやりした樣だ。原人の生活をこゝに見出した樣な氣がする、そして自分だけが異分子でお客樣に來た樣な氣がする。お辨當は子供にとつてどんなに嬉しい事であらう。かあいゝ籠の中には小さいお茶碗、お箸、布巾、お辨當など奇麗に入つて居る。お母樣は最もお辨當に注意してやらねばならぬといふ事がしみ〴〵思はれるのであつた。

お晝から私は子供とお弓場に行つた。本校を見るといふ事が私には譯もなく嬉しく子供よりも勇んでるのが自分ながら可笑しかつた。

第二一日

今日は私の机の子がみんな揃つた、七人の子を守つて椅子によると俄に大人になつた樣な感がする。潜めるマザアレーの氣分が微笑ませる。今摺紙が初まつた。K先生がお客樣を連れて入つていらしつた。始生叔父樣らしい笑をたゝへていらしつた。

「先生風船を折つて下さい」「先生僕も風船」「私にも風船」。

四方からせめ立てられても先生は摺方をテンデ知らない。早速ほんとの先生に馳けつけて折つて頂く一人の子には「いゝもの折つてあげませう」なんて帆かけ舟で御免を被つておく。一人の子は飛行器だなんて得体の知れないものを折つてさつさと外に逃げて行つた。

砂場では電車ごつこが大流行、木片に砂をのせて藤の葉板を二本さす、それで象徴的な電車が出來上つた。

「チリン〳〵動きまあす、品川ゆき〳〵」。

なんてやつて居る。葉板の棒を前後に四本さして居るのがある。「可笑しいぢやありませんか」かういふと「先生、甲武線ですよ」。何時の間にか運轉手は工夫に變つて居る。車庫やトンネルが作られ初めた。

「先生お團子」柔らかな形のお團子が二つ桝の中に入つて居る。そしてそれには赤い煉瓦をすつた粉がふりかけてある。「ありがたう御馳走さま」につこり笑つて歸つてゆく子の白いエプロンは砂だらけである。かう土に親しむといふ事が私には何だか嬉しい樣な悲しい樣な感がする。人間は土に生れて土に歸りゆく。ロマンテックな天上の夢ばかり見て居る人は生存競爭には堪へ得ないのである。

「先生はお母樣よ、煉瓦をかいて下さい、ね先生」。

何だか極りが惡くなつてあたりを見廻したが誰も居なかつた。「お母樣はそんなに遊んでちやいけないぢやございませんか、ねえ」急製のお母樣は閉口して了つた。

今の教生と元の教生

A「此頃幼稚園は何う?」

B「よくつて〳〵堪らないの、私幼稚園が嫌だといふ人がわからない。卒業したら自分で幼稚園を立てゝ園長兼媒姆兼小使になつて見たい。そして婆やを一人おいて」

C「お母樣をよんで來ればいゝぢやありませんか」

B「でも私、婆や(一寸節をつける)と呼びたいの」

A「立てられない事もないでせう。今あなたのお机にはどんな子が居るの?」

B「T、O、N、Aあんな子が居ますよ。」

A「Tは默つてるのでせう?」

B「でも此頃は何でも私に話す樣になりました。かあいゝ子ね。一文字にキユツト口を結んで。」

A「私あの子を何うかして活潑に遊ばせたいと思つて隨分心配して見たけれど餘り手をかけるといけない樣だからおしまひにはなるべく放つておく樣にして居ました」

B「えゝあの子は一人がいゝの。隨分氣が長いけれど終までよくやつてるんですもの。此頃はね私が何處に居てもたづねて「先生お砂場」つて引ぱつてゆくの。此間ワツと泣いて來たら可哀さうで〳〵私も一緒に泣いて了つたの。何てかあいゝ子でせうね。O先生もあの子が可愛くつて堪らないんですつて。「Tさん來たナ」つて仰有るとニコリともしないで口をキリツと結んで了ふの。だから私「先生いらしつちやいけません、此子は大人が禁物ですから」と申上げると先生は「大人が耻しいなんて中々洒落れてる」つて笑つてらしやるの。「叔父さんがいらしつたつて一文字よ。」

B「ほんとにだんまり屋ね、でもTがあなたのお机でほんとに嬉しかつた。電車ばかり書くでせういつもね。何故あゝ電車に興味があるんでせうね。いつか「Tさんあなた又電車?」つて云つたらお船を一つかきましたよ。男の子は電車、汽車、軍艦あゝいつた動くものに馬鹿に興味があるのね、それから飛行器」

B「Tが此頃そりや洒落れた象をかきますよ、お父さんにきいたんですつて。」

A「まあさう、見たいこと。Tにはちつとも遇つた